

学校コード F124310107183

注3

設置年度 平成 31年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人鈴鹿医療科学大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名

課長・山口えり子 ヤマグチ コ ヤマサキ オサム 山崎 領

電話番号

059-340-0330

（夜間）

なし

e-mail

kikaku@suzuka-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

保健衛生学部

＜リハビリテーション学科理学療法学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	22
5. 教員組織の状況	24
6. 附帯事項等に対する履行状況等	52
7. その他全般的事項	53
添付. 鈴鹿医療科学大学FD推進委員会規程	別ファイル

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人鈴鹿医療科学大学

(2) 大 学 名

鈴鹿医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

千代崎キャンパス（2年次以降及び本部）
〒510-0293
三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1

白子キャンパス（1年次）
〒510-8670
三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(タカギ ジュンイチ) 高木 純一 (令和元年6月19日)		就任(平成19年3月26日) 再任(平成23年5月30日) 就任(平成27年6月19日) 再任(令和元年6月19日)(2)
学 長	(トヨダ ナガヤス) 豊田 長康 (令和3年4月1日)		就任(平成25年4月1日) 再任(平成27年4月1日) 再任(平成29年4月1日) 再任(平成31年4月1日) 再任(令和3年4月1日)(3)
学 部 長	(モリシタ ヨシタカ) 森下 芳孝 (令和2年4月1日)		就任(平成30年4月1日) 再任(令和2年4月1日)(3) 再任(令和4年4月1日)(4)
学 科 長	(ハタナカ ヤスヒコ) 畠中 泰彦 (令和2年4月1日)		就任(平成31年4月1日) 再任(令和2年4月1日)(3) 再任(令和4年4月1日)(4)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
保健衛生学部 リハビリテーション学科 (理学療法専攻) 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4 年	40 人	年次 人	160 人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人	人 40 (-) [-]	人	人 40 (-) [-]	人	人 40 (-) [-]	人	人 40 (-) [-]	人	1.10倍	一倍	第2志望、 併願含む
志願者数	() []	() []	272 (-) [-]	- (-) [-]	323 (-) [-]	- (-) [-]	267 (-) [-]	- (-) [-]	278 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	269 (-) [-]	- (-) [-]	321 (-) [-]	- (-) [-]	265 (-) [-]	- (-) [-]	276 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	106 (-) [-]	- (-) [-]	87 (-) [-]	- (-) [-]	109 (-) [-]	- (-) [-]	118 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	45 (-) [-]	- (-) [-]	43 (-) [-]	- (-) [-]	41 (-) [-]	- (-) [-]	49 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A			1.12		1.07		1.02		1.22				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	45 [—] (—)	— [—] (—)	44 [—] (2)	— [—] (—)	41 [—] (—)	— [—] (—)	50 [—] (3)	— [—] (—)			
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	42 [—] (—)	— [—] (—)	50 [—] (7)	— [—] (—)	42 [—] (7)	— [—] (—)			
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	35 [—] (—)	— [—] (—)	38 [—] (—)	— [—] (—)			
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	35 [—] (—)	— [—] (—)			
計									45 [—] (—)	86 [—] (1)			126 [—] (7)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	45 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	2 人	人	進路変更(2)
令和2年度	86 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	1 人	人	進路変更(1名)
			令和2年度	人	人	
令和3年度	126 人	10 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	3 人	人	学力不足(1名)、進路変更(2名)
			令和2年度	3 人	人	学力不足(1名)、精神的な問題(2名)
			令和3年度	4 人	人	学力不足(2名)、進路変更(2名)
令和4年度	165 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合 計		13 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{45} = \boxed{4.44} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{86} = \boxed{1.16} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{10}{126} = \boxed{7.93} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{165} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜保健衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 分野	いのちと医療の倫理学	1前	2								13
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2								13
	社会の中の人と医療	1後	2						1		12
	チーム医療Ⅰ	1後	1				1				11
	チーム医療Ⅱ	2集中		1			1				7
	医療人底力実践（基礎Ⅰ）	1前	1				2		1		31
	医療人底力実践（基礎Ⅱ）	1後	1						1		30
	医療人底力実践（展開）	3後		1			1				14
	医療人底力実践（応用）	4前		1			1				14
	キャリアプランニング	2前		1							3
	医学医療最近の進歩	1前		1							6
	食と健康	1前		1							7
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							2
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							3
	スポーツ健康科学	1前	2								1
	スポーツ科学実習	1後		1							2
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							5
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前		2							1
	小計（48科目）	－	13	48	0	0	3	0	2	0	124

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 分 野	いのちの倫理学	1前	1								6
	医療の倫理学	1前	1								7
	医学の基礎入門	1前	1								7
	臨床医学への招待	1前	1			1					6
	医療・福祉の変遷と制度	1前	1								6
	人々の生活と医療	1前	1								7
	多職種連携の基礎	2前	1			1	1				13
	医療人底力実践Ⅰ（専修プログラム）	1前	1			3	2		4		
	医療人底力実践Ⅱ（専修プログラム）	1前	1				2		4		33
	医療人底力実践Ⅲ（テーマサイエンス）	1後	1								1
	医療人底力実践Ⅳ（専修プログラム）	1後	1				2		3		26
	事例で学ぶ多職種連携	3後		1		1			1		15
	実践で学ぶ多職種連携	4前		1		1			1		24
	医療現場で学ぶチーム医療（基礎）	1後		1		1					8
	医療現場で学ぶチーム医療（応用）	2前		1		1	1		2		16
	医学医療最近の進歩	1前		1			1				6
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							3
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							1
	スポーツと健康	1前	1								2
	スポーツの科学	1前	1								2
	スポーツ科学実習	1後		1							2
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							1
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前	1								1
	小計（54科目）	－	16	46	0	5	4	0	8	0	140

専門分野	基礎運動学	1後	2				1				
	応用運動学	2前	2				1				
	運動学実習	2後	1				1		1		
	臨床運動学	4後	1			1					
	運動器系評価学	2前	2				1		1		
	神経系評価学	2後	2				1				
	理学療法評価学実習	3前	1				1		1		
	臨床評価法実習	3前	1				1		2		1
	物理療法学	2後	2				1				
	物理療法学実習	3前	1				1				
	運動療法学総論	2前	2			1					
	運動器系理学療法	3前	1				1				
	運動器系理学療法実習	3後	1				1				
	脊髄損傷理学療法	2後	1				1				
	神経系理学療法実習	3前	1				1				
	神経系理学療法実習	3後	1				1				
	神経筋系理学療法	3前	1				1				
	発達障害系理学療法	2後	1						1		
	発達障害系理学療法	3前	1						1		
	循環呼吸系理学療法	2後	2			1					
	循環呼吸系理学療法実習	3後	1			1					
	生活技術学	2後	2						2		
	生活技術学実習	3前	1						2		
	義肢装具学	2前	1			1					
	義肢装具学実習	3前	1			1	1				
	理学療法特論	4後	1			4	3		4		
	スポーツ医学	3後	2			3					1
	理学療法技術論演習	3後	1			2	3		3		
	ロボットリハビリテーション演習	3後	1			1					
	生活環境学	3後	2						1		
	老年期障害学演習	4後	1			1					
	地域理学療法	3後	2						1		
	初期臨床実習	2後	1			2	3		4		
	臨床評価実習	3前	3			2	3		4		
	総合臨床実習	4前	14			2	3		4		
	卒業研究の基礎	3後	2			2	3		1		
	卒業研究	4後	1			2	3		4		
	小計（37科目）	-	64	0	0	4	3	0	4	0	2
合計（112科目）			-	107	56	0	4	4	0	4	137
卒業要件及び履修方法											
必修科目107単位、基礎分野の選択科目から16単位、専門基礎分野の選択科目から4単位、合わせて127単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年48単位、2年40単位、3年30単位、4年30単位（年間））											

専門分野	基礎運動学	1後	2				1				
	応用運動学	2前	2					1			
	運動学実習	2後	1					1		1	
	臨床運動学	4後	1				1				
	運動器系評価学	2前	2				1			3	
	神経系評価学	2後	2				1				
	理学療法評価学実習	3前	1				1		1		
	臨床評価法実習	3前	1				1			4	1
	物理療法学	2後	2					1			
	物理療法学実習	3前	1					1			
	運動療法学総論	2前	2				1				
	運動器系理学療法	3前	1				1				
	運動器系理学療法実習	3後	1				1				
	脊髄損傷理学療法	2後	1				1				
	神経系理学療法	3前	1					1			
	神経系理学療法実習	3後	1					1			
	神経筋系理学療法実習	3前	1					1			
	発達障害系理学療法	2後	1							1	
	発達障害系理学療法実習	3前	1							1	
	循環呼吸系理学療法	2後	2				1				
	循環呼吸系理学療法実習	3後	1				1				
	生活技術学	2後	2							2	
	生活技術学実習	3前	1							2	
	義肢装具学	2前	1				1				
	義肢装具学実習	3前	1				1	1			
	理学療法特論	4後	1				4	2		4	
	スポーツ医学	3後	2				2				1
	理学療法技術論演習	3後	1				3	2		4	
	ロボットリハビリテーション演習	3後	1				1				
	理学療法管理学	4後	1							1	
	生活環境学	3後	2							1	
	老年期障害学演習	4後	1								1
	地域理学療法	3後	1				1			1	
	初期臨床実習	2後	2				3	2		4	
	臨床評価実習	3前	3				3	2		4	
	総合臨床実習	4前	15				3	2		4	
	卒業研究の基礎	3後	2				3	2		4	
	卒業研究	4後	1				3	2		4	
	小計（38科目）	-	66	0	0	4	2	0	4	0	3
合計（118科目）			-	117	46	0	5	4	0	8	150
卒業要件及び履修方法											
必修科目117単位、基礎分野の選択科目から13単位、合わせて130単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年48単位、2年40単位、3年30単位、4年30単位（年間））											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 分野	いのちと医療の倫理学	1前	2								15
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2								16
	社会の中の人と医療	1後	2								15
	チーム医療Ⅰ	1後	1			1					11
	チーム医療Ⅱ	2集中		1							8
	医療人底力実践（基礎Ⅰ）	1前	1			1		3			30
	医療人底力実践（基礎Ⅱ）	1後	1			2		3			31
	医療人底力実践（展開）	3後		1							14
	医療人底力実践（応用）	4前		1							14
	キャリアプランニング	2前		1							3
	医学医療最近の進歩	1前		1							7
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							2
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							3
	スポーツ健康科学	1前	2								2
	スポーツ科学実習	1後		1							3
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							3
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前		2							1
	小計（48科目）	－	13	48	0	1	2	0	4	0	132

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 分 野	いのちの倫理学	1前	1								6
	医療の倫理学	1前	1								7
	医学の基礎入門	1前	1								7
	臨床医学への招待	1前	1								7
	医療・福祉の発展と制度	1前	1								6
	人々の生活と医療	1前	1								7
	多職種連携の基礎	2後	1			1					14
	医療人底力実践Ⅰ（実習プログラム）	1前	1			2	2		3		2
	医療人底力実践Ⅱ（実習プログラム）	1前	1				2		3		32
	医療人底力実践Ⅲ（実習プログラム）	1後	1				2		2		29
	事例で学ぶ多職種連携	3後		1							17
	実践で学ぶ多職種連携	4前		1							17
	医療現場で学ぶ多職種連携（基礎）	1後		1		1			1		11
	医療現場で学ぶ多職種連携（応用）	2前		1					1		15
	医学医療最近の進歩	1前		1		1					6
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							2
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							3
	スポーツと健康	1前	1								2
	スポーツの科学	1前	1								2
	スポーツ科学実習	1後		1							2
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							3
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前	2								1
	小計（53科目）	－	16	46	0	2	3	0	2	0	135

専門基礎科目	解剖学	1前	2							2
	応用解剖学	1前	2							2
	解剖学実習	1後	1							2
	生理学	1前	2							1
	応用生理学	1後	2							1
	生理学実習	1後	1			2				4
	病理学概論	2前	1							1
	臨床心理学	2前	1							1
	発達学	2前	2							1
	リハビリテーション概論	1後	1		1	2		2		4
	リハビリテーション医学	1後	1							1
	内科学総論	2前	1							3
	内科学各論	2後	1							3
	整形外科科学総論	2前	1							1
	整形外科科学各論	2後	1							1
	神経内科学総論	2前	1							1
	神経内科学各論	2後	1							1
	小児科学	2後	1							1
	一般臨床医学	3前	1							1
	精神医学	4後	1							1
	医学英語	2後	1							1
	リハビリテーション工学	4後	2							2
	救急医学概論	4後	2							1
	画像評価学	4後	1		1	1				4
	臨床栄養学	2前	2							1
	薬理学	4後	2							1
	小計（26科目）	－	35	0	0	1	2	0	2	0

専門基礎分野	解剖学	1前	2								1
	応用解剖学	1前	2								1
	解剖学実習	1後	1			1			2		1
	生理学	1前	2								1
	応用生理学	1後	2								1
	生理学実習	1後	1			1		2		1	2
	病理学概論	2前	1								1
	臨床心理学	2前	1								1
	発達学	2前	2						1		1
	リハビリテーション概論	1後	1		2	2			3		2
	リハビリテーション医学	1後	1								1
	内科学総論	2前	1								3
	内科学各論	2後	1								2
	整形外科科学総論	2前	1								1
	整形外科科学各論	2後	1								1
	神経内科学総論	2前	1								1
	神経内科学各論	2後	1								1
	小児科学	2後	1								1
	一般臨床医学	3前	1								1
	精神医学	4後	1								1
	医学英語	2後	1								1
	リハビリテーション工学	4後	2								2
	救急医学概論	4後	2								1
	画像評価学	4後	1			2		1			3
	臨床栄養学	2前	2								1
	薬理学	4後	2								2
	小計 (26科目)	-	35	0	0	2	2	0	3	0	21

専門分野	基礎運動学	1後	2							1
	応用運動学	2前	2				1			
	運動学実習	2後	1				1		1	
	臨床運動学	4後	1			1				
	運動器系評価学	2前	2						2	1
	神経系評価学	2後	2						1	1
	理学療法評価学実習	3前	1						1	1
	臨床評価法実習	3前	1						3	2
	物理療法学	2後	2				1			
	物理療法学実習	3前	1				1			
	運動療法学総論	2前	2			1				
	運動器系物理療法学	3前	1			1				
	運動器系理学療法実習	3後	1			1				
	脊髄損傷理学療法	2後	1							1
	神経系理学療法	3前	1				1			
	神経系理学療法実習	3後	1				1			
	神経筋系理学療法実習	3前	1				1			
	発達障害系理学療法	2後	1							1
	発達障害系理学療法実習	3前	1							1
	循環呼吸系理学療法	2後	2			1				
	循環呼吸系理学療法実習	3後	1			1				
	生活技術学	2後	2						2	
	生活技術学実習	3前	1						2	
	義肢装具学	2前	1			1				
	義肢装具学実習	3前	1			1	1			
	理学療法特論	4後	1			2	2		3	4
	スポーツ医学	3後	2			1				3
	理学療法技術論演習	3後	1			2	2		2	2
	ロボットリハビリテーション演習	3後	1			1				
	理学療法管理学	4後	1						1	
生活環境学	3後	2						1		
老年期障害学演習	4後	1							1	
地域理学療法学	3後	1						1	1	
初期臨床実習	2後	2			2	2		3	2	
臨床評価実習	3前	3			2	2		3	2	
総合臨床実習	4前	15			2	2		3	2	
卒業研究の基礎	3後	2			2	2		3	2	
卒業研究	4後	1			2	2		3	2	
小計（38科目）	—	66	0	0	2	2	0	3	0	5
合計（117科目）	—	117	46	0	2	3	0	3	0	146
卒業要件及び履修方法										
必修科目117単位、基礎分野の選択科目から13単位、合わせて130単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年48単位、2年40単位、3年30単位、4年30単位（年間））										

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 分 野	いのちの倫理学	1前	1								6
	医療の倫理学	1前	1								7
	医学の基礎入門	1前	1								7
	臨床医学への招待	1前	1			1					6
	医療・福祉の発展と制度	1前	1								6
	人々の生活と医療	1前	1								7
	多職種連携の基礎	2前	1			2	1				11
	医療人基力養成1（専修プログラム）	1前	1			2	2		4		1
	医療人基力養成2（専修プログラム）	1前	1				2		4		33
	医療人基力養成3（専修プログラム）	1後	1				3		3		28
	事例で学ぶ多職種連携	3後		1					1		16
	実践で学ぶ多職種連携	4前		1					1		16
	医療の場で学ぶチーム医療（基礎）	1後	1			1					8
	医療の場で学ぶチーム医療（応用）	2前	1						1		15
	医学医療最近の進歩	1前		1		1					6
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							3
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							1
	スポーツと健康	1前	1								2
	スポーツの科学	1前	1								2
	スポーツ科学実習	1後		1							2
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							3
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前		2							1
	小計（53科目）	-	16	46	0	4	3	0	8	0	134

[illegible]

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・指導体制見直しにより、「チーム医療Ⅰ」の専任教員の配置を「教授0」「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」の専任教員の配置を「准教授2」「助教1」から「准教授1」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」の専任教員の配置を「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・新指定規則において「画像評価学」を必修化するように指示されているため、画像評価学を新設。
- ・新指定規則において栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化した為、「臨床栄養学」および「薬理学」を「選択」から「必修」に変更。
- ・「神経系理学療法学演習」の中で行っていた「画像評価」等の内容を整理したことにより、授業科目の名称を「神経系理学療法学演習」から「神経系理学療法学」に変更。
- ・新指定規則において「理学療法管理学」が追加され、必修科目となった為、授業科目に「理学療法管理学」を新設。
- ・指定規則の改正（「地域理学療法学」の演習・実習を臨床実習に移行し、1単位減とする）に適合させる為、「地域理学療法学」を「2単位」から「1単位」に変更。
- ・指定規則の改正（「地域理学療法学」の演習・実習を臨床実習に移行する。地域包括ケアシステム強化に資する人材育成のため2単位追加する。）に適合させる為、「初期臨床実習」を「1単位」から「2単位」に変更。
- ・臨床実習の充実の為、「総合臨床実習」を「14単位」から「15単位」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「高橋猛」「浅田啓嗣」「多田智美」「中俣孝昭」については、令和元年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼任」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

【令和2年度】

- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「いのちと医療の倫理学」を「いのちの倫理学」と「医療の倫理学」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医学を学ぶための基礎知識」を「医学の基礎入門」と「臨床医学への招待」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「社会の中の人と医療」を「医療・福祉の変遷と制度」と「人々の生活と医療」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「チーム医療Ⅰ」と「キャリアプランニング」を「多職種連携の基礎」に統合。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「多職種連携の基礎」の専任教員の配置を「教授1」とした。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」を「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」と「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」に分割し、「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」の専任教員の配置を、「教授2」「准教授2」「助教3」、「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」の専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」を「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」に名称変更し、専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（展開）」を「事例で学ぶ多職種連携」に名称変更および、専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（応用）」を「実践で学ぶ多職種連携」に名称変更および、専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）」を新規科目として追加。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）」を新規科目として追加。
- ・指導体制見直しにより、「医学医療最近の進歩」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「スポーツ健康科学」を「スポーツと健康」と「スポーツの科学」に分割。
- ・情報リ活用能力を養成する教育を充実するため、「情報リテラシー」を選択科目から必修科目に変更。
- ・指導体制見直しにより、「解剖学実習」の専任教員の配置を「准教授0」「助教0」から「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「准教授3」「助教2」から「准教授2」「助教1」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション概論」の専任教員の配置を「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション医学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「運動器系評価学」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「准教授0」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「臨床評価法実習」の専任教員の配置を「准教授1」「助教2」から「准教授0」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「理学療法特論」の専任教員の配置を「教授4」「准教授3」「助教4」から「教授2」「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「スポーツ医学」の専任教員の配置を「教授3」から「教授1」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「理学療法技術論演習」の専任教員の配置を「准教授3」「助教3」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「初期臨床実習」の専任教員の配置を、「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「総合臨床実習」の専任教員の配置を、「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究の基礎」の専任教員の配置を「准教授3」「助教1」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究」の専任教員の配置を「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「浅田啓嗣」「多田智美」については、令和2年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼任」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

【令和3年度】

- ・指導体制見直しにより、「多職種連携の基礎」の専任教員をの配置を「教授1」「准教授0」から「教授2」「准教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」の専任教員をの配置を「助教3」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」の専任教員をの配置を「助教2」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」の専任教員をの配置を「准教授2」「助教2」から「准教授3」「助教3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「事例で学ぶ多職種連携」の専任教員をの配置を「助教0」から「助教1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「実践で学ぶ多職種連携」の専任教員をの配置を「助教2」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）」の専任教員をの配置を「助教1」から「助教0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員をの配置を「助教1」から「助教2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「発達学」の専任教員をの配置を「助教1」から「助教2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション概論」の専任教員をの配置を「助教3」から「助教2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「内科学総論」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「内科学各論」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「画像評価学」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「基礎運動学」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「運動器系評価学」の専任教員をの配置を「助教2」から「助教3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「神経系評価学」の専任教員をの配置を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法評価学実習」の専任教員をの配置を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「臨床評価法実習」の専任教員をの配置を「助教3」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「実践で学ぶ多職種連携」の専任教員をの配置を「助教2」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「脊髄損傷理学療法学」の専任教員をの配置を「准教授1」から「准教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法特論」の専任教員をの配置を「教授2」「助教3」から「教授3」「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「スポーツ医学」の専任教員をの配置を「助教3」から「助教2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法技術論演習」の専任教員をの配置を「助教2」から「助教4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「初期臨床実習」「臨床評価実習」「総合臨床実習」「卒業研究の基礎」「卒業研究」の専任教員をの配置を「助教3」から「助教4」に変更
- ・「二井英二」「浅田啓嗣」については、令和3年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼任」としてカウントしている。
なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

【令和4年度】

- ・指導体制見直しにより、「多職種連携の基礎」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」を新設し、「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」を「医療人底力実践Ⅳ（発展プログラム）」に名称変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践Ⅳ（発展プログラム）」の専任教員をの配置を「教授3」から「教授2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「事例で学ぶ多職種連携」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「実践で学ぶ多職種連携」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）」の専任教員をの配置を「教授0」「准教授0」「助教1」から「教授1」「准教授1」「助教2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「医学医療最近の進歩」の専任教員をの配置を「教授1」「准教授0」から「教授0」「准教授1」に変更
- ・講義授業から演習中心に変更したことにより、「情報リテラシー」の単位数を2単位30時間から1単位30時間に変更。
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション概論」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション医学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「内科学総論」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「内科学各論」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「整形外科総論」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「整形外科各論」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「一般臨床医学」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「救急医学概論」の専任教員をの配置を「教授0」「准教授0」から「教授2」「准教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「画像評価学」の専任教員をの配置を「教授3」から「教授2」に変更
- ・指導体制見直しにより、「基礎運動学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「運動器系評価学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「神経系評価学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法評価学実習」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「臨床評価法実習」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「脊髄損傷理学療法学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法特論」の専任教員をの配置を「教授3」から「教授4」に変更
- ・指導体制見直しにより、「理学療法技術論演習」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「老年期障害学演習」の専任教員をの配置を「教授1」から「教授0」に変更
- ・指導体制見直しにより、「地域理学療法学」の専任教員をの配置を「教授0」から「教授1」に変更
- ・指導体制見直しにより、「臨床評価実習」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「総合臨床実習」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究の基礎」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究」の専任教員をの配置を「教授2」から「教授3」に変更

- (注) ・ 2(1)ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
69 科目	43 科目	0 科目	112 科目	80 科目 [11]	38 科目 [△5]	0 科目 []	118 科目 [6]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	食品学	2	4	専門	選択	新指定規則において、栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「食品学」を削除。(元)
2	生化学	2	2	専門	選択	新指定規則において、栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「生化学」を削除。(元)
3	チーム医療Ⅱ	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「チーム医療Ⅱ」を削除。(2)
4	キャリアプランニング	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「キャリアプランニング」を「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」に吸収。(2)

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

入学前の変更となるため、影響なし(1・2)。(元)
新カリキュラムの科目を履修することで読替えるものとする(3・4)。(2)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{4}{112} = \boxed{3.57} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	146,325.45㎡ 152,229.94㎡	0㎡	0㎡	146,325.45㎡ 152,229.94㎡	部屋の用途変更等 (4)			
	運動場用地	23,805.30㎡ 21,630㎡	0㎡	0㎡	23,805.30㎡ 21,630㎡	運動場用地基準の見直し (4)			
	小 計	170,130.75㎡ 173,859.94㎡	0㎡	0㎡	170,130.75㎡ 173,859.94㎡				
	そ の 他	25,073.73㎡ 21,344.54㎡	0㎡	0㎡	25,073.73㎡ 21,344.54㎡				
	合 計	195,204.48㎡	0㎡	0㎡	195,204.48㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	65,744.44㎡ 64,697.95㎡ 64,696.89㎡ 65,744.44㎡ (64,697.95㎡) (64,696.89㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	65,744.44㎡ 64,697.95㎡ 64,696.89㎡ 65,744.44㎡ (64,697.95㎡) (64,696.89㎡)	部屋の用途変更等 (3) 入力ミス (元)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	※リハビリテーション学科 全体の教室数			
	22室 23室	13室 9室	20室 10室	1室 (補助職員 0人)	7室 (補助職員 0人)	令和2年度カリキュラム変更により 使用教室追加 (2) 教室等の追加・変更 (4)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		教員数の減 (4)			
		保健衛生学部 リハビリテーション学科		18 19 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	保健衛生学部リ ハビリテーション 学科	3,957 [316] 3,914 [314] 3,741 [314] 3,615 [311] (3,957 [316]) (3,914 [314]) (3,710 [314]) (3,615 [311])	25 [1] (25 [1])	10 [10] 8 [8] 10 [10] 8 [8]	47 (47)	2,348 2,335 (2,348) (2,335)	43 39 (43) (39)		
	計	3,957 [316] 3,914 [314] 3,741 [314] 3,615 [311] (3,957 [316]) (3,914 [314]) (3,710 [314]) (3,615 [311])	25 [1] (25 [1])	10 [10] 8 [8] 10 [10] 8 [8]	47 (47)	2,348 2,335 (2,348) (2,335)	43 39 (43) (39)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		新学科設置に伴い棚を 増やしたため (元) 棚を増やしたため (3)		
		3,872.89㎡	514		193,361 193,300				
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				多目的室に変更 (3)		
		1,888.73㎡	テニスコート5面		卓球ルーム				
(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	雑誌を含んだため (元)
		教員 1 人 当り 研究費等	400千円	400千円	図書購入費	5,530千円 4,455千円	1,673千円 2,000千円	1,000千円	購入時に精査したため (2)
		共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	117,491千円 105,001千円	242千円 10,000千円	10,000千円	設備充実のため (元) 開設前年度に購入した ため (2)
	学生 1 人 当り	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	納付金	1,700千円 1,600千円	1,600千円 1,500千円	1,600千円 1,500千円	1,600千円 1,500千円	- 千円	- 千円		令和2年度入学者より 全学科で学費を変更し たため (2)
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	鈴鹿医療科学大学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
保健衛生学部	4	400	-	1600	-	1.09	1.10	-	平成3	(全学部全学科の1年次) 三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
放射線技術科学科	4	100	-	400	学士 (診療放射線学)	1.17	1.15	-	平成3	(2年次以降) 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1	
医療栄養学科	4	90	-	360	-	1.10	1.13	-	平成3	同上	
管理栄養学専攻	4	40	-	-	学士 (栄養学)	1.06	1.07	-	平成23	同上	
臨床検査学専攻	4	50	-	-	学士 (臨床検査学)	1.14	1.18	-	平成23	同上	
理学療法学科	4	-	-	-	学士 (理学療法学)	-	-	-	平成14	同上	平成31年度学生募集停止
リハビリテーション学科	4	80	-	320	-	1.07	1.07	-	平成31	同上	
理学療法学専攻	4	40	-	-	学士 (理学療法学)	1.10	1.22	-	平成31	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	-	学士 (作業療法学)	1.04	0.92	-	平成31	同上	
医療福祉学科	4	60	-	240	-	0.90	0.95	-	平成16	同上	
医療福祉学専攻	4	30	-	-	学士 (医療福祉学)	0.72	0.80	-	平成25	同上	
臨床心理学専攻	4	30	-	-	学士 (心理学)	1.08	1.10	-	平成25	同上	
鍼灸サイエンス学科	4	30	-	120	学士 (鍼灸学)	1.16	1.10	-	平成25	同上	
救急救命学科	4	40	-	160	学士 (救急救命学)	1.17	1.17	-	令和4	三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
医用工学部	4	80	-	320	-	1.06	0.97	-	平成3		
臨床工学科	4	40	-	160	学士 (臨床工学)	1.16	1.07	-	平成3	同上	
医用情報工学科	4	-	-	-	学士 (医療情報工学)	-	-	-	平成3	同上	令和3年度学生募集停止
医療健康データサイエンス	4	40	-	160	学士 (医療健康データサイエンス)	0.98	0.87	-	令和3	同上	
薬学部	6	100	-	600	-	0.95	0.82	-	平成20		
薬学科	6	100	-	600	学士 (薬学)	0.95	0.82	-	平成20	三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
看護学部	4	100	-	400	-	1.06	1.03	令和2	平成26		
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.06	1.03	令和2	平成26	同上	定員変更(20)
大学全体		680	-	2920	-	-	-	-	-	-	収容定員は全学部全学科、令和4年度の入学定員×修業年限の数値。

大 学 の 名 称	鈴鹿医療科学大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
医療科学研究科	年	人	年次人	人		倍	倍				
医療科学専攻 (修士課程)	2	35	-	75	修士 (医療科学)	0.63	0.56	-	平成22	三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1	
医療科学専攻 (博士後期課程)	3	30	-	60	博士 (医療科学)	0.20	0.00	-	平成22	同上	
薬学研究科	4	5	-	15							
医療薬学専攻 (博士課程)	4	2	-	8	博士 (薬学)	0.87	1.00	-	平成26	三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
大学院全体	-	37	-	83	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 （専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・専任教員の辞退者はなし。
- ・兼任・兼任教員の変更は担当教員表の通り。

【令和2年度】

- ・専任教員の辞退者はなし。
- ・兼任・兼任教員の変更は担当教員表の通り。

【令和3年度】

- ・専任教員の辞退者はなし。
- ・兼任・兼任教員の変更は担当教員表の通り。

【令和4年度】

- ・専任教員1名辞任。詳細は5(3)-②の通り。
- ・兼任・兼任教員の変更は担当教員表の通り。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
5	6	0	8	19	1	5	5	0	8	18	1
(2)	(5)	(0)	(6)	(13)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
5	5	0	8	18	1	5	5	0	8	18	1
[0]	[△1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[0]	[△1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、既に設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{19} = \boxed{94.73} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{18} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
 就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	山門 徹		必修	臨床医学への招待	②	自己都合のため（４）						
				必修	内科学総論	②							
				必修	一般臨床医学	②							
				必修	多職種連携の基礎	②							
				必修	老年期障害学演習	②							
				必修	スポーツ医学	②							
				必修	理学療法特論	②							
				必修	内科学各論	②							
			必修	画像評価学	②								
合 計（Ｆ）					後任補充状況の集計（Ｇ）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	9	科目	必修	0	科目	必修	9	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	0	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について**に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
1	人	必修	9	科目	必修	0	科目	必修	9	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	0	科目	計	9	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{1}{19} = 5.26 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任については、退職は一身上の都合 (家庭の事情) によるものであり、やむを得ない事情によるものであると判断して退職を認めた。「スポーツ医学」は兼任教員として本人が担当し、それ以外の科目については、他の兼任・兼任教員が担当する旨、学生はWEBシラバスで確認することができる。(4)

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (平成30年)	特になし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	特になし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	特になし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	特になし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健衛生学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①卒業要件単位数 ・理学療法学専攻 127単位（必修科目107単位、選択科目20単位） ・作業療法学専攻 126単位（必修科目106単位、選択科目20単位） ②指定規則変更に伴う実習指導者要件変更への対応	① 卒業要件単位数 理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラムの変更に対応するため、以下のように追加・変更した。 ・理学療法学専攻 130単位（必修科目114単位、選択科目16単位） 必修科目5科目7単位追加し、選択科目2科目4単位削除した。 ・作業療法学専攻 126単位（必修科目110単位、選択科目16単位） 必修科目5科目7単位追加し、3科目3単位削除した。 選択科目2科目4単位削除した。（元） ① 卒業要件単位数 基礎分野の全学的な教育課程の見直しおよび、作業療法学専攻については、世界作業療法士連盟（WFTO）の認可を取得するため、以下のように変更した。 ・理学療法学専攻 130単位（必修科目117単位、選択科目13単位） 必修科目3単位増及び選択科目3単位減とした。 ・作業療法学専攻 130単位（必修科目116単位、選択科目14単位） 必修科目6単位増及び選択科目2単位減とした。 （実習の単位数増など）（2） ②各々の職能団体等とも連携し、臨床実習指導者講習会修了者は順調に増加している。（2） ②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面での臨床実習指導者講習会は開催延期しているが、既に110名の指導者を本学主催の講習会で養成している（理学療法学専攻）。（3） ②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨床実習指導者講習会はオンラインでの開催となった（作業療法学専攻）。（3）

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

・FD推進委員会

FD推進委員会を設置している。FD推進委員長、副学長（教務・教育改革担当）、各学部学科から1名の代表教員が参画している。【添付「鈴鹿医療科学大学FD推進委員会規程」参照】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・FD推進委員会

上記委員会が中心となり、年間の活動計画を検討し、その課題に合わせて教員を選出し、活動している。
参加状況は月1回程度の委員会にほぼ全員の委員が出席している。
また、FD推進委員会の下部組織として、LMS研究部会を設置し、2021年度から活動開始。

c 委員会の審議事項等

- ・ 本学独自のFD体制を構築
- ・ FD・SD講演会・教育研究会等の実施
- ・ 授業評価高得点賞の表彰
- ・ 授業評価公開内容および活用方法の検討
- ・ 外部FDフォーラムへの参加
- ・ FDハンドブックの制作
- ・ 学生参画型委員会の開催

② 実施状況

a 実施内容

- ①FDハンドブックの作成及び活用方法の検討
- ②FD・SD講演会の開催について
- ③教育研究会の開催について
- ④学生に対する授業評価アンケートについての説明会を動画配信で開催
- ⑤学生による授業評価高得点賞の表彰者の検討
- ⑥授業評価結果公開内容の検討
- ⑦学外主催のFDフォーラム等への参加
- ⑧学生参加型のFD推進委員会を開催

b 実施方法

- ①FD推進委員会にてFDハンドブック2022を作成し、授業運営の工夫や教育改善の取り組み事例等に加え各学科・専攻におけるFDハンドブックの活用方法について掲載した。全教員へ配布済み。
- ②FD・SD講演会開催日を大学の学年暦に掲載し実施。 令和3年9月1日（水）令和4年9月1日（木）
LMS研究会は令和3年度に4回実施。
- ③教育研究会開催日を大学の学年暦に掲載し実施。 令和4年3月18日（金）令和5年3月17日（金）
- ④授業評価アンケートを前・後期2回実施。その結果、高得点の教員方と学長が面談し、工夫等聞き取りした結果高得点賞を決定している。表彰された教員は前項の教育研究会で講演した上で、要約文書をFDハンドブックに掲載し、授業の工夫等を全学で共有。
- ⑤授業評価結果をグラフ化し、本学教育システムにて履修学生にフィードバックし、更に大学ホームページ学内専用サイトに公開。今後は記述の部分についても公開を検討中。
- ⑥FDフォーラムに参加した教員は、大学ホームページ掲載用報告書を作成。
- ⑦全学科・専攻から1名ずつ学生代表として「教育改善委員」を命じ、FD推進委員会に出席。
令和3年8月5日（木）実施 令和4年8月5日（金）実施予定

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ①FD推進委員会の中にワーキンググループを設置し、FDハンドブックの作成を進めている。
- ②FD講演会 参加人数 165名 Zoom開催したため、録画したURLを参加できなかった教員へ配信し、視聴後、教務課へ連絡頂き、確認している。
- ③授業評価結果を受けて改善した内容等を記すため、シラバス項目内に「授業評価結果等の活用・改善案等」を設けている。シラバスは2011年以降WEB公開しているため、履修希望学生や履修後学生も閲覧が可能。
また、本項目のみ印刷し、図書館に配架しているため、いつでも閲覧が可能。
- ④教育研究会にて、学生による授業評価高得点賞の方々の表彰式および、学長による授業評価アンケートの分析結果と受賞者（2021年度3名）による授業工夫の講演を実施。
- ⑤授業評価結果を受けて改善した内容等を記すため、シラバス項目内に「授業評価結果等の活用・改善案等」を設けている。シラバスは2011年以降WEB公開しているため、履修希望学生や履修後学生も閲覧が可能。
また、本項目のみ印刷し、図書館に配架しているため、いつでも閲覧が可能。
- ⑥FDフォーラムへの参加報告書を大学ホームページ学内専用サイトへ公開している。2021年度FDフォーラムは、コロナウイルス感染症拡大の影響によりZoom開催した。
- ⑦学生代表「教育改善委員」が、教育改革委員会&FD推進委員会合同会議に参画。
開催日：令和3年8月5日（木）13時30分～15時30分 事前に意見を収集した資料を基にZoom開催
テーマ：1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業改善に結びつけるかについて
3. 遠隔授業（Zoom）について
4. 教育に関する改善点について

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

コロナ禍で遠隔授業が増えている中、教員はZoomのアンケート機能等を利用し確認テストを行い、予習復習のためのe-learningを活用している。このような授業形態の変化に対し、学生による授業評価を前期、後期で行い、また、学生代表が委員会へ参画することで意見を収集し、それらを基に短期・長期的に改善しなければならない点（講義内容や形式）を教員間で認識するために、今後に向けた議論の展開をしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

（有）実施時期：令和3年7月1日～8月6日、令和3年12月14日～令和4年2月4日 の2回

b 教員や学生への公開状況、方法等

履修学生には、教務システムにより公開し、大学ホームページ学内専用サイトでも公開している。
学生のアンケートによって改善した点は、印刷したものを冊子にし、図書館で閲覧できるようにしている。

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神に基づき、確固たる医療人としての職業意識を持ち、豊かな人間性と倫理観を培い、医療・福祉系総合大学という教育環境を活かし、チーム医療の一員として地域医療・在宅医療に貢献できる、専門性の高い資質を持ったリハビリテーションの専門職育成を目的としている。加えて、作業療法学分野の認知度と職業としての魅力の向上も目標としている。2019年度入試では、入学定員80人（理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人）に対し、入学者は（理学療法学専攻45人、作業療法学専攻43人）であった。また、2020年度入試では、入学者は（理学療法学専攻43人、作業療法学専攻48人）であった。さらに、2021年度では（理学療法学専攻41人、作業療法学専攻39人）、2022年度入試では（理学療法学専攻49名、作業療法学専攻37名）であり、ほぼ4年連続で定員を充足できており、かつ妥当な基礎学力を持つ学生を確保することが出来ている。上記目的の達成のため、申請時の計画を確実に履行していく次第である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

「鈴鹿医療科学大学基本方針2015」に基づく

- ・令和元年6月15日 第2期中期計画1年目の自己点検・評価を公表済
- ・令和2年6月15日 第2期中期計画2年目の自己点検・評価を公表済
- ・令和3年6月15日 第2期中期計画3年目の自己点検・評価を公表済

「鈴鹿医療科学大学基本方針2021」に基づく

- ・令和4年6月15日 中期計画1年目の自己点検・評価を公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開済（令和元年6月、令和2年6月、令和3年6月）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度認証評価機関（日本高等教育評価機構）の評価受審中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無] ※抜粋版

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。